

編集 後記

本号には、地域包括支援センターにおける地域ケア会議の運営に関する質的研究、壮中年の野菜摂取の関連要因に関する研究、母親を対象とする地域活動の在り方に関する研究、それぞれの原著論文と、長野県の平均寿命が2位に後退した背景を年齢別死亡率から検討した資料の計4編を掲載しています。いずれも、公衆衛生活動の現場の疑問や課題を科学として記録、検証している論文、資料です。ぜひ一読いただき、読者の皆様の公衆衛生活動を支えるエビデンスとして活用していただければと思います。

さて、このところ、日本公衆衛生学会の国際化の在り方が議論されており、第77回日本公衆衛生学会総会（福島県郡山市）では、English Sessionも企画されているところです。それぞれの地域に根差した公衆衛生活動を展開すると同時に、そこから得られる一般化可能な知見の発信が、今後国内外でますます増えるものと思われます。公衆衛生学の研究では、観察研究や無作為化比較試験のようなデザインでの介入研究だけではなく、普及や実装のプロセスや結果を科学的に検証することも求められます。このような実装科学（Implementation science）は公衆衛生の領域において、ますます活用されると思いますので、今後の学会の国際化とあわせて、研究の共通言語として取り入れられることを期待しております。みなさまからの様々な視点、アプローチでの投稿をお待ちしております。

（鈴木友理子）

次号予告（第65巻・第11号）

原 著

- 受動喫煙規制に関する新聞記事の内容分析
町田夏雅子, 他
 産後1か月の褥婦における睡眠と主観的精神健康
 感との関連.....足達淑子, 他
 受動喫煙の他者危害性の認識と禁煙への関心
秋山 理, 他

資 料

- 川崎市におけるリアルタイムサーベイランスと
 感染症発生動向調査の比較.....中村孝裕, 他